



TITLE:

同好會廣島支部だより

AUTHOR(S):

TO

CITATION:

TO. 同好會廣島支部だより. 天界 1930, 11(115): 42-43

ISSUE DATE:

1930-10-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/161581>

RIGHT:

天文同好會

廣島支部だより

T O 生

「眠れる支部」それは廣島支部の上に冠せられた名譽ある(?)ネームでした。支部としても相當古く、又創立以來の會員を有する廣島支部——永い間眠つて居たのです。1929年の秋頃から2,3名の會員により冬眠より覺めるべく支度が始められ出しました。

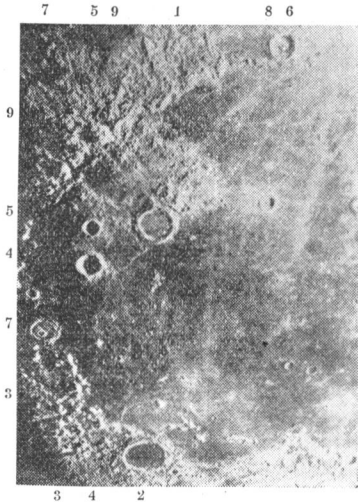
1930年——新春を迎へた當支部は若い3名の會員が原動力となつて花々しく活動を始めました。1月27日——山本先生が御來廣になり藝備ビル食堂に於て歡迎會を催しました。集る者25名。仲々の盛會で山本先生の「エロス」の御話に一同大喜びでございました。この會の事は天界の3月號へ先生がお書きになつて居りますから、略します。此の會により層一層力付けられた當支部は種々と計畫を立てたのであります。其の内で主なるものは、天文趣味の普及の爲め毎月1回觀測會を開く事でありました。

3月1日——第1回の觀測會を廣島電氣株式會社のバルコニーで催しました。參會者約40名、生憎空模様が余り良くなかつたので觀測は十分に出来ませんでした。天體寫眞を見ながら夜おそくまで快談して散會致しました。當夜は尾道、西條の遠方から出席された熱心家もありました。

5月10日——一般公開の觀測と展覽會を廣島電氣で開きました。目新しい催なのと、2ヶ所へ廣告を出したのが應へてか、來るは來るは。400名からの人が押掛けて來ました。バルコニーへは屈折機2台、反射機1台を出しました處、廣いバルコニーも人でうすもるばかりでありました。4階では、星圖、天體寫眞、レンズ、等を展覽致しました。陳列品中、中村饒氏製作の30センチ鏡と15センチ鏡、隕石、月の立體寫眞、サソリの標本は大人氣でありました。熱心な人が多く非常に心強く感じました。又、學生や婦人が澤山來會されました。尙、來會者へは、もれ無く、月面のインブross海の寫眞を印刷したのを進呈しました。

6月27日——東京の五藤研究所の野口氏が来廣され、御持参の望遠鏡で観測會を神崎小學校で開く豫定でありましたが、雨の爲中止致しました。

7月12日——広島天文同好會の發會式を広島電氣のバルコニーで開きま



インブロス(雨の窓)附近の月面

- 1 アルキメデス: 2 ブラート: 3 アルプス山脈の大溝谷:
4 アリスティルス: 5 アウトリクス: 6 エラトステネス:
7 カッシニ: 8 チモカリス 9 アベニン山脈中の火山:

(ウィルソン山天文臺撮影)

◆ 天文同好會広島支部 ◆

した。参會者21名。金星、土星、月を観測の後、満月を全身に浴び乍ら協議を致しました。會則其他を決定して茶菓に舌を打ち乍ら自己紹介や雑談に時を過しました。縣工の磯貝先生から野尻先生がNo. 1と折紙を付けられた北斗の傳説をお聞きし、廣島の近くにこんな立派な傳説があるかと思ふと一種の誇りを感じました。

広島天文同好會と言ふのは、會費を要せず誰でも入會出來、天文趣味を普及するを目的とする會で、天文同好會の登龍機關なのであります。

8月8日——岡山支部の水野幹事をお招きして神崎校で講演と観測の會を催

しました。開會前に夕立があつたので來會者は100名ばかりでしたが熱心な人ばかりでした。水野氏が「北極星に付いて」と言ふ題で御講演になり、其の後空が晴れたので屋外で観測を致しました。

高師の14センチ、廣縣師のブツシュの7センチ、広島電氣の7センチ、水野氏御持参の7センチと、外一機。以上の五機を土星、月に向け、總攻撃を開始し宇宙の神秘を探りました。當夜広島天文同好會へ約30名の入會者がありました。10時半頃散會致しましたが、來會者一同大喜びされて居りました。

以上が8月までの経過報告であります。

今後の活動を御期待下さいますと共に層一層の御指導御援助の程をお願い申上ます。